vol.53 2022 春号 源流からのたより

### またし

継続の先にひらくあらたな未来

おかげさまで 20 周年

源流のひとしずく



進んでまいります。 まれる一滴の水が、川となり、いつもさまざまな 心から感謝を申し上げます。「水源地の森」に生 ただいた20年間だったと思います。みなさまには き、支えていただき、そしていっしょに歩んでい 年を迎えます。多くの方々にかかわっていただ の財団法人ならびに森と水の源流館が、今年20周 人々とつながっていることをこれからも意識して 2002年4月、川上村に設立いたしましたこ

## 目に見える保全活動の充実

て、もっと目に見える行動として伝えていくこと も必要だと思います。 です。そのためには私どものスタッフが核となっ とする自然の保全です。これからもそのことをし っかり訴えて、内外の共感を得ていくことが重要 た第一義は、「吉野川源流―水源地の森」を中心 原点といえば、川上村でこの法人が立ち上がっ

> きる人に成長することを願っています。 ながり」などを認識し、ふるさとの価値を理解で 然としながら、ここでは「源流の誇りや使命」「生 その校名が『川上村立かわかみ源流学園』と決定 校を統合した義務教育学校が開校予定です。 命や自然の循環」また「水のつながりは、 しました。 9年間の学び舎となります。 学業は当 2年後の2024年4月、川上村には小中学 人のつ

# 原点を視て、さらに次のカタチづくり。 これまでの「歩み」をどう活かせるか。

け、各種の大臣表彰などもいただいてきました。 続性や自然の持続性を訴えていきたいということ 向けた提言を目指し、実践活動を通じて、地域の持 は、源流である川上村を拠点としながら、吉野川紀 れた、流域連携の取組みを続けてきたことは、た 中でも『環境白書』にて先進事例として採用さ でした。いま、その原点を思い出しています。 の川流域へ、奈良県へ、和歌山県内へ、そして全国へ いへん誇らしく感じています。設立の際に描いた志 この間、私どもの活動は多方面からの評価を受

> と共感に値する動きの輪が広がります。 た「つながり」をじゅうぶんに活かせば、きっ 自らできること、 流域として、国の動きの中 またSDGsの視点で…。この20年で培っ

学習をするように、9年間の課程で、水源地の

たとえば滋賀県の子どもたちが全員、琵琶湖の

そこでもこの法人の役割は大きいと考えます。

源を教材とし、体験と座学で、流域を学び、

森を訪ねることはもちろん、ダムを含め地域資

人と出会う。それらを各教科とつなげる仕組

# 教育における「源流モデル」を!

域の価値を伝え、高める動きに力を入れていま るなどは、その成果と言えます ここ数年はESDなど教育面において、源流地 『川上宣言』が、まちの小学校で教材とされ

ことに寄与すべく、今から取組んでもらいた

みや制度を源流の村モデルとして具現化する

いと思っています。

川上村長

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

### 吉野川紀の川の流れでつながる みなさまから

設立



### 和歌山県立自然博物館 学芸課長 平嶋 健太郎

様

微力ながらこの先の10年、 生活スタイルや意識の変化はめまぐるし しい状態の自然が残されているの るような生物の営みや、こんなに素晴ら 魔しております。訪れるたびにホッとす には20年以上前から調査などで時 に活動していけたら幸いです。 ることと思います。和歌山の海辺より、 しかし、 いう驚きと喜びに会うことができます。 20周 今後の貴館の果たす役割は大きくな 年 近年の山の環境の変化や我々の おめでとうございます。 20年とご一 か、 マお Ш 上 ع 緒

## 稿本市教育委員会

### 教育長 今田 実 様

まれ、 は、 る飛躍を遂げられますよう祈念申し ていきます。 生命や生活が支えられていることを伝え 共に、森の命や人々の努力で、 境にあります。 ました。この文化の源が川上村の森林環 を、心からお祝い申し上げます。 らびに、 紀の川の清き流れと豊かな自然に育 遠い万葉の昔から文化を築いてき 団法人吉野川紀 森と水の源 20周年を節目として、 今後も森と水の源流館と 流 館の 0) Ш 設立 源 私たち 流 橋本市 20 周 物

## 森林環境保全促進

## 和歌山市議会議員連盟

### 会長 寒川 篤 様

放郷、了 り敬意を表します。 地道な活動を続けてこられた貴法人に心よ 自 からお慶び申し上げます。 然環境の保全・啓発に真摯に向き合 水源地保護はもとより、流域の水環境と 20周年を迎えられましたことを、 1,

と改めて思いを強くしているところです。 強く手を取り合い、 きることに感謝し、このかけがえのない資 源を必ず未来に引き継がなければならな 「命の水」の源に思いを寄せ、これからも 和歌山市に注ぐ「命の水」を享受で 共に歩んでまいります。

## 紀ノ川農業協同組合

### 宇田 篤弘 様

開催された、 思います。 わりの恵みを広げる活動「紀の川じるし」 など流域での交流が進みました。 したり、 環境フォーラム2006」でした。その後、 へと発展していきました。流域連携を大切 このような取り組みを経て、流域でのこだ ・年「吉野川紀の川ふれあいデー」に出展 上宣言との出会いは、2006年3月に 20周年おめでとうございます。 持続可能な地域社会を共にめざしたいと 村民の方に玉ねぎ畑まで来て頂く 温暖化防止イベント「紀の Ш 上 村 ЛÍ

### 奈良県水循環•森林•景観環境部 水資源政策課長

宏

様

て、 循環の構築に努めてまいります。 連携・協働しながら水源地保全など健全な水 祈念申し上げるとともに、県としても皆様と の役割を担われている貴館の益々のご発展を た取組みが必要です。それらの架け橋として から下流域まで、水循環の視点で一体となっ す。この恩恵を持続可能とするには、 川の源流にある川上村は、生命の源である 水」を守り、育み、「大和の水がめ」とし 設立 その恵みを平野部にも届けられていま 20周年おめでとうございます。 源流域

毎号このページでは、源流や水源地に関わる 「都市側」から見た源流の村への思いや視点を 紹介しています。今回は20周年にあたり、 5名の方からメッセ―ジを頂戴いたしました。 厚く御礼を申し上げます。 これまで多くの素 敵な出会いに恵まれました。 今回ご紹介しき れなかった方々にも今後この誌面で登場いた だきます。そして、これからも新たな出会い がありますように…。

### 上中下流の環境のちがい 川上村の森の歴史に注目を

吉野川源流に原生林が残されたのは何で?川上村が吉野林業で栄えたのは何で?たくさんの生き物が川上村にいるのは何で?上中下流にはどんな自然の役割があって、どんな生き物がいるの?という方はぜひご来館ください。

森にも川にも歴史にもつながりがあることを新しい展示でも伝えられればと思います。



企画調查班長 木村 全邦

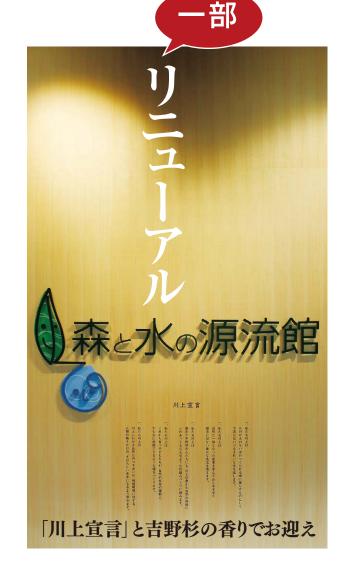
### 森林の役割について もっと詳しく学べるように

樹と水と人の共生、つまり森や川と暮らすということ。おいしい水も、涼しい風も、安全な場所も、心地よい家も森があるからとなかなか実感できませんが、私たちは暮らせています。そして、私たちの行いは良くも悪くも森へ返ります。森とのかかわりを考えるきっかけに役立ててください。



企画調查班 上西 由恵

# 展示としていることも、今回の改修の特徴です。 はえつづけていくために は、 またしっかりと 展一なるこれから先へ、またしっかりと 展一な人にえつづけていくために ほっかりました。



### 水のつながりを みんなが感じてほしい!

この20年間での吉野川紀の川流域連携の活動によっ てつながったヒト、モノ、コトを1枚のパネルに表現 しました。小学校の児童や先生を含む、出会った多 くの方々が口にされた言葉を埋め込んでいます。20 年前では創れなかったパネルだと思います。水のつ ながりの学習の場面で、ぜひご活用ください。



事務局長 尾上 忠大

### たくさんの昆虫たちが 暮らす環境ごと紹介!

野外観察をしていると様々な「?(不思議)」や「!(発 見)」に出会えます。この展示では生きものが暮らす 環境を背景や標本箱の中で表現しています。フィール ドで「?」を探す予習、フィールドで見つけた「!」の 復習、生きものたちの暮らしが自然の中で果たす役 割を調べるために活用してください。



古山暁 企画調査班

### これからも舞台の袖から しっかり支えます!

みなさまのご来館をお待ちしています。 公益法人の維持のため、普段は経理業務 に専念していますが、ご案内をさせて 頂く事もあります。宜しくお願いします。



### 総務経理班長 奥野 和徳

古株パートの私ですが、 より内容が充実した源 流館のお手伝いが出来る ように気持ちも新たに頑

前羽 朋子

張ってい きます。

これからもいつまでも、 きれいな森と水の源流館 を楽しんでいただけるよ うお手伝いができれば嬉



上田 厚子

### 源流に暮らした人たち の歩みを見てください

発掘に参加したので宮の平遺跡には特に強い思い入 れがありますが、川上村には他にも丹生川上神社上 社や後南朝など大きな遺産があります。新しいパネ ルではそれらを大きく取り上げ、宮の平遺跡の展示 もより分かりやすくなりました。源流の村の歩みと 営みに興味を持つきっかけにしていただければと思 います。



成瀬 匡章

### 源流学の森づくり 伐採された原生林跡地を 立派な源流の森へ

当時館長の辻谷さんに道具の手入れ、間伐の仕方や道づくりなどをわかり易く楽しく教えていただきました。また、みんなでわんぱく基地のような源流の宿をつくり、一晩語り合ったことは忘れられない貴重な思い出です。



辻井 了兌彦

### 水源地の森調査 専門家と協同で進める生態調査

初めて水源地の森を訪れたとき、シオジやトチノキなどが立ち並ぶ渓畔林の姿に「こんなに綺麗な場所があるのか」と圧倒されたのを覚えています。自然にかかわる仕事がしたいと思うきっかけになり、今も自然の中で働いています。

和田 孝史



### 森と水のワークショップ 源流を体感、生きる力を育む機会を! 参加した子どもも立派な大人に

小学生の時に「森と水のワークショップ」に参加し、川上村の豊かな自然を感じ、環境に興味を持ちました。今は愛知県で環境調査の仕事をしています。大気、水、土などが『安全・安心』かどうか、現地に赴き試料をサンプリング・分析、その結果をまとめ、報告まで行っています。

少しでも興味があれば、一歩踏み

出してください。

堀内 克己



### 水源地の森ツアー

吉野川紀の川源流の大切さを学ぶ 環境学習ツアーを継続

17年前初めての「水源地の森ツアー」でオオルリを見て〝感激〟

杉、檜と植林された山々とは別世界 「水源地」ならではの綺麗な水と空 気、カジカガエル、アマゴ、コケなど 四季を通して水源地の生き物たちに会 いに行きたいと思っています。



鳥山 都美

## ともとさん

ふりかえります。活動の思い出を夢んできた

### 白屋地区での活動

大滝ダム建設で無住になった フィールドで調査や環境保全活動

昔の白屋の景色が大好きです。石垣 や道路、木々の無言の声を聞いたよう に、胸が熱くなりました。守り、伝え

る重要さを痛感してい ます。

北川 幸子



わたしの心の源流、白屋! 色々な人や事柄との出会い、新たに交流 できた源流人会でのイベントや活動での 出会い、この出会いが多くの人に広がっ

ていけばいいのになぁと 強く思います。

岸本 直子



### 流域での啓発活動 まちにも飛び出し、さまざまな発信

森と水の源流館のオープン前日からボランティアに駆けつけたことが懐かしいです。奈良市内での環境フォーラム、森守募金イベント、毎年盛夏の橿原市内でのシンポジウムなど、協働で取組み、源流を守るメッセージを伝えてきたことを

誇りに思います。これからも共 に進みましょう。

NPO法人 奈良21世紀フォーラム

### インタープリター講座 学び合いの場から森の案内人を 目指し、その後、教え子と実践も

学生とのエコツアー研修を10年に わたって実践。初回参加者全員が原生 林初体験、生まれてはじめて川水をす くって飲み、杉と檜を間伐した。

ある学生は「また、単位が無くても 自分で来たい」。この天然の自然なしに 私は私らしく生きられない。天然復活 保全・脱成長の「ゆっくり」共生世界を めざして共に歩みつづけましょう。

橋本 義郎



### 海辺のまちでPR

いつも地元の支えを受けて 和歌山市内での活動も展開

大滝ダムサイトで、昔の吉野川の川 原であったような運動会イベントに参 加し、みんな自然豊かな場所で笑顔 いっぱいだったのを思い出します。和 歌山市で事業を営んでおりますが源 流館の名前を子どもたちからよく耳に し、水・森の大切さを伝えて頂いてい るのを大変喜んでおります。

株式会社 ディープジャパン 代表取締役 古川 義高



### 宮の平遺跡にみる 4000年前の光景



あらためて森と水の源流館の展示を じっくりとご見学してはいかが!

## 今の上社の場所

大滝ダム建設が始まる前に撮影 丹生川上神社上社も川のそばに鎮座。

## 本と水の源流館が建つ川上村の迫・宮の平には、約8000年の歴史はほんの20/800に生まれた私たちの歴史はほんの20/800にまでの成長(と言えるかどうかは、みなさまに決めていただくべきですが)の間には、さまざまなできごとがありました。ここで少し過去をまなできごとがありました。ここで少し過去をまなできごとがありました。ここで少し過去をまなできごとがあります。この地には、約8000年の歴史があります。この地には、約8000年の歴史があります。この地には、約8000年の歴史があります。

### ここに森と水の源流館が建ち20年、着実に樹木たちは成長しています

年

前

の集落

0

風



2002年4月 館の背後に苗木を植栽。

私たちも



クヌギなどが大きくなり、山肌を覆っていま す。(ハチの巣を駆除するスタッフ)



昆虫観察には適した森になりました しかしシカも近くまでやってきています。

### 時の流れにのって いつも前進してきました!

### ニーズをキャッチし、大胆に攻める!





奈良県で森林環境税導入による森林環境教育への需要を見越し、2007年度に「学べる屋台」を開発。現在のコロナ禍でも、「できない」 理由をさがすより「できる」 ことへ攻めの姿勢は変わりません。

### つねにアップデートで、可能性を拓く!





「源流の森シアター」で上映する自然の四季の映像は、開館当初から変わりませんが、機器のメンテナンスや更新は欠かせません。「川上村劇場」も同様です。しかしそんな時にも現状維持に留まらず、新しい活用の可能性を見越して工夫をしてきました。いまの新型コロナウイルスが終息の暁には、再びコンサートやワークショップ、パブリックビューイングなどに活用していきたいとウズウズしています。

### いつも出会いに感謝し、つなぐ!







私たちの歩みは、ここでは、ほんの一片に過ぎないけれど

10周年記念事業で出会ったネイチャーフォトグラファー内山りゅうさん。20万人目のご来館となった中澤先生とESDを深める学校の先生方や奈良教育大学のみなさん。日ごろの流域連携の活動を通じて出会ったしらす漁師の高井さんと和歌浦漁協のみなさん。その後の事業の中でも、つながりを広げています。

### けれど変わらないものは大切に!





開館の前日、多くのボランティアさんが夜遅くまで飾りつけをしてくれました。 階段に貼った文字もその頃のまま。また開館2年目に村民さんが水槽に入れてく れたウナギは今も夜になると元気に動き出します。

### 20年間のおもなできごと

2002 年 財団法人吉野川紀の川源流物語設立 (4/1) (平成14年)

森と水の源流館開館(4/29)

2003年 世界子ども水フォーラムにて活動発表

2004年 「愛地球博」奈良県の日に出展

和歌山市民の森づくり開始

2007年 奈良県の森林環境教育支援に「学べる屋台」導入

2008年 利用者10万人達成(初の「奈良県山の日川の日」)

2009年 水源環境保全活動功労者表彰(環境大臣賞)

2011年 紀伊半島大水害襲来(7日間休館)

2012年 公益財団法人へ移行認定

10周年「誕生日の宴」 開催

2013年 水資源功績者表彰(国土交通大臣表彰)

2014年 河川功労者表彰(公益社団法人日本河川協会)

第34回全国豊かな海づくり大会放流・歓迎行事

川上村にて開催

ダム建設功績者表彰(一般財団法人日本ダム協会)

2016年 利用者20万人達成

環境省「つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト」

ミニフォーラム開催

過疎地域自立活性化優良事例表彰(総務大臣賞)

グッドライフアワード 環境大臣特別賞

2017年 「開館15周年記念日」開催

森と水の源流館ESD授業づくりセミナー開始

2018年 環境白書に「紀の川じるし」等の事例が掲載

2019年 令和元年!企画展「あの頃の夏休み」開催

2020年 新型コロナウイルスの影響(2か月間休館)

2021年 森と水の源流館展示改修

# 継続の先にひらく

小学校で「総合的な学習の時間」がはじまった年に 私たちも誕生しました。

「環境教育」という言葉を入口に試行錯誤を繰り返しいつも「education」に向き合ってきました。

いま ESD (持続可能な未来を担う人のための教育) の 視点を大切に、これからの私たちの役割を考えます。

「事業」とは流れに乗ることが不可欠ですが、そのために忘れてはいけないもの、守るべきものがあります。 これからも、そのバランスを持ち続けたいと思います。

感謝をこめた 20 周年のシンボルマークは

水とみどりの地球 [earth] のイメージで表現しました。 environment、ecology、evergreen…いろいろな"e"に 誕生日の頃に咲く川上村の花「やまぶき」の色を 添えました。

> 公益財団法人 吉野川紀の川源流物語 事務局長 尾上忠大





### 源流人募集



源流人とは かけがえのない水を生む源流の自然とそこから 海や都市へとつながる様々なものを愛する人です。

Mandan Ma 源流人会とは 無れ、交流し、参加し、喜びを 会れた会しながら、源流を完け、奈てている

分かち合いながら、源流を守り、育ててゆこ うとする会です。 個人 2,000円

2022年度入会特典 川上村ポケット図鑑 ※写真はイメージです。 個人 2,000円 家族 3,000円 学生 1,000円 団体10,000円

郵便振替 00940-1-331163

表紙の写真:2002年4月29日(みどりの日)森と水の源流館スタート

### 森宁募金



### にご協力ありがとうございました。

令和2年度は、130,846円の森守募金を お預かりし「水源地の森」啓発パンフ レットと啓発看板の作成を行いました。

> 源流域の環境保全は みなさまの善意に 支えられています。



吉野川源流

ひきつづき、ご協力をお願いいたします。

郵便振替 00950-2-331164「水源地の森守募金」あて

発行日:令和4年3月発行 発行所:公益財団法人吉野川紀の川源流物語 森と水の源流館 TEL:0746-52-0888